

令和6年度決算を審査

令和6年度決算の一般会計については、歳入額640億5千7百万円、歳出額613億9千3百万円で26億6千4百万円の黒字となり、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は10億6百万円となりました。

また、国民健康保険事業特別会計から後期高齢者医療事業特別会計までの特別会計6会計については、各会計とも黒字で、水道事業会計については、純利益7千5百万円、下水道事業会計については、純利益ゼロ円となりました。

予算決算特別委員会におきましては、こうした決算の状況を踏まえ、第八次総合計画に基づく各種施策について、予算が適切かつ効率的に執行されているのか、どんな成果があったのか、令和6年度の新規・拡充事業の進捗はどうであったか、決算を次年度の事業執行や予算編成にどう生かしていくのかなど、予算と決算の連動性という観点から、決算書はもとより、主要施策実績報告書、事業評価シート、監査委員の決算及び基金の運用状況等に係る審査意見書等を参考にしながら、各常任委員会で論点整理を行い、幅広い見地から慎重に審査を行いました。

審査の結果、令和6年度高山市一般会計歳入歳出決算、令和6年度高山市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算及び令和6年度高山市学校給食費特別会計歳入歳出決算の3件はそれぞれ「財政調整基金の在り方について」「低所得者に対する保険料の減額について」「物価高騰下における給食費の改定について」委員間討議を行った後、起立多数で、令和6年度高山市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算などの6件については、全員一致で原案どおり認定すべきものと決しました。



総務環境委員会

問 地域おこし協力隊の成果や隊員の高山市に対する熱量は。

答 地域おこし協力隊員の皆さんは、そもそも高山に魅力を感じ、住みたいとか自然が好きだという方である。また、各団体の取り組みに賛同し応募されたこともあり、やりたいことを一緒に進めているため、よい雰囲気が進んでいる。実績面では各地域の行事に顔を出すことで広がりが出てきていることなどが効果的だと感じている。大事にしながら広げていきたい事業と考えている。

問 高山市は、環境省の脱炭素先行地域に選定され、令和6年度から5年間の事業期間で、10カ所の新規小水力発電及び3カ所の木質バイオマス熱電併給設備に取り組み2050年には市全域ゼロカーボンの実現を目指している。令和6年度は小水力発電5カ所の開発が決算審査対象となったが、具体的な地域は。また、予算額より減額されている理由は。

答 朝日地域の二又川、高根地域の濁川、水屋谷川、黍生川、久々野地域の阿多粕川の上流で進めている。令和5年に脱炭素先行地域に選定され、5年間で補助金交付額49億円と見込んでいたが、環境省による概算事業費の精査があり、対象交付額が39億円となった。